

普及活動情勢報告（平成20年2月分）

中芸地区でオクラ栽培講習会（ドリフト対策と初期管理）



オクラはナスの補完作物として有望視され、定着しつつある。しかし、稲やナスなど混在地での栽培が多いため農薬の飛散に特に気を使っている。飛散防止策として効果が期待できる防虫ネットや防壁作物を導入するには圃場準備期に行なう必要があるため、1月末の栽培講習会を提案して実現した。6か所延べ60名の参加があり、参加者からは「防風ネットを張れば、強風対策にも役立つ。何年も使えるので経費もかからん。」と好評であった。また、生育初期の栽培管理にも活発な意見交換ができた。4月中旬には現地検討会を行なう。

中芸地区農漁村女性グループ研究会「お国自慢の会」開催



消費者にグループ員の生産物（園芸産物、加工品）の特長や、利用の仕方を知ってもらうために、当会を開催し、グループが互いに自慢しあい、その内容を機関紙に盛り込み、消費宣伝時に役立てる事にした。出席者38名（役場、JA含）、出展料理22品、加工品は15品が作られ、「市場視察等でのPR時に参考になる。女性も積極的に市場に行くように。」と話がでた。また、家庭果樹栽培講習も行い、直販対策、我が家の自給率向上をめざすことになった。そのほか、「花・人・土佐であい博」への取り組みとして、各グループに花の種を配布しグループで栽培する事になった。さらに、5月花博ではフードコーナーへの出店等を決めた。盛りだくさんの内容であったが、今後も、4か町村で構成されている研究会が広域的で共通な課題に取り組める組織活動ができるように支援していく。

農地有効利用のためのブロッコリー講習会～東洋町野根地区より～



講習会より

東洋町野根地区では水田の有効利用を図るために、農家代表と関係機関との意見交換会で、ブロッコリーとオクラを推進することとなった。12月の稲作部会でその経過を説明したところ、部会員からもう少し具体的に知りたいとの意見が多かった。

そこで、1月24日にブロッコリー講習会を開催し、振興センターからは宿毛の事例を中心に栽培技術、出荷販売、経営試算、今後の見通しを報告した。

当初、参加希望者は数名と見込んでいたが、「11名」と思わぬ反響で「どの程度の湿田ならできるのか」「後作の稲への影響は」と熱心な質問が出てきた。

今後は、要望に応じて講習会、先進地視察等出来る限りの情報を提供し、今秋以降の栽培に繋げていきたいと考えている。

農業経営改善支援活動に関する意見交換会で支援活動体制を強化



J A土佐あきが実施している、重点指導により経営改善が見込まれる農家を対象とした農業経営支援活動の強化を図るため、同様の取り組みを実施しているJ A高知春野から職員を招いてJA 土佐あき職員と農業振興センター職員で意見交換会を開催した。

互いの取り組み状況を紹介するとともに、これまでの支援活動を実施する中で課題となった点とその対策などについて活発な情報交換がされ、農家と課題共有することはもちろん、組織内でも関係部署への報告といった基本的なことを確実にやり、組織として情報共有を行うことが、支援体制を強化するうえで重要であることなどを確認した。

今後とも引き続き、今回の意見交換会の内容を踏まえ、農協の支援活動を支援してゆく。

ユズせん定シーズン始まる！！



2月17日の日曜日に、兼業農家も参加できるようにとJA土佐あき柚子部主催による「ユズ講座」が開かれた。今回は、中山地区で行われ、休日しかユズのせん定作業ができない部員を中心に49名の参加があり、せん定勉強した。振興センターからは、せん定の基本的な方法の説明と現地での実技講習を行った。中山地区は、安芸地区の中でも新しい産地で、新植も多く、特に、幼木の仕立て方に質問が多く、主枝の取り方など指導した。安芸地区では、これから月末まで地区ごとの講習会があり、3月から本格的にせん定が始まる。

2月のナス品目別検討会を開催しました。



2月14日にナス品目別検討会（参加者50名程度）を安芸集出荷場ナス部の現地検討会と合わせて行った。今まで1グループで行っていたため十分な情報提供や意見交換ができていなかったため、今回は2グループに分かれて行った。検討会は、始めに市場情勢報告を行い、その後現地を3カ所（土佐鷹2圃場、竜馬1圃場）回り、厳寒期のナスの栽培状況を確認した。振興センターはコーディネーターとして、現地圃場での栽培状況や管理などの積極的な意見交換などを行うように努めた。現地では、栽培者の管理状況や感想などを話してもらい、参加者には「葉を除けすぎなのでは」とか、「灌水が足りないのでは」などの栽培に対する感想や灌水・摘葉の仕方などのアドバイスなどの発言があり、今までと比べ参加者から発言が多くなった。